

ナシ黒星病の発生に注意し、防除対策を行いましょ

ナシ黒星病は春先に降雨が多く、低温の年には発生が多くなります。昨年、黒星病の発生が多く越冬伝染源が多い圃場でも発生が多くなると考えられます。圃場をよく観察し、薬剤防除や耕種的防除を徹底することにより、ナシ黒星病の発生を抑制しましょう。

1 防除対策

●薬剤防除

- 通風・採光を良くし、開花期前後に散布した薬剤が樹全体にかかるようにする。特に、圃場の周辺部など薬液のかかりにくい場所は丁寧に散布する。
- 黒星病は感染後、発病までに約15日間程度の潜伏期間があるため、常に発病状況を確認するとともに、防除を徹底する。
- 薬剤の連用はできるだけ避け、ローテーション散布を行う。

●耕種的防除

- 圃場に残っている落葉は圃場外に持ち出し、埋設等適切に処分を行う。
- 病斑を見つけた場合は、直ちに除去し、同様に処分する。

2 主な防除薬剤

薬剤名	希釈倍率	使用量	使用時期	使用回数
トレノックスフロアブル	500倍	200～700 L/10a	収穫30日前	5回以内
ベルコート水和剤	1500倍	200～700 L/10a	収穫14日前	5回以内
スコア顆粒水和剤	4000倍	200～700 L/10a	収穫14日前	3回以内



果そう基部病斑



葉部の病斑



☆詳しい農薬情報は農林水産省ホームページ(<http://www.maff.go.jp/j/nouyaku/>)の「農薬コーナー」をご覧ください